

鳥羽シアワセ研究所

vol.4

企画経営室



25

1101

(地域活性化起業人 難波潤史)

「地域共生」を マーケティングする

『月をマーケティングする』(デイヴィッド・ミアマン・スコット、リチャード・ジュレック著)という本をご存じでしょうか。ケネディ大統領が宣言した、10年以内に人類を月に送り無事に帰ってくる「アポロ計画」のお話です。この本の帯の言葉が秀逸です。『人類がまだ火星に到達していないのは、つまるところ、火星探査事業のマーケティングが失敗に終わったからだろう』

初代ファミコン程度のCPUで月に到達して戻れたのに、現代の最新技術をもってしても火星探査が実現しないのは、マーケティングの失敗だということです。本書によるとNASAはアポロ計画にベトナム戦争なみの費用を使ったようです。今から思えば無謀ともいえ

る取り組みが進められたのは、NASAがメディアを巻き込み、アメリカ国民を巻き込み、世界を巻き込み「月に行つて帰つてくる」ことをみんなの夢にしたからです。つまり「月をマーケティングする」とは「月面着陸を、世界中の人にとつての『自分ごと』『自分の夢』とし、世界が一つになって応援する仕組みをつくる」ことだったわけです。

いま鳥羽市で取り組もうとしている地域共生は、はたして月のマーケティングになるのでしょうか、はたまた火星に？地域共生を成功に導くために、役所や一部の関係者だけが「実現しよう」と思っ

ていてもなかなか進みません。市民のみならず一緒に「鳥羽は日本中が羨むまちになる」という夢を実現するため、少しずつ地域での関わりが増えていくことが重

要です。NASAのようにうまくいかないこともあるでしょう。それでも一歩ずつ前進し続けてこそ、道が開けてくるでしょう。NASAから学ぶべきことは「生中継で『いま』を伝える」「事実をありのままに伝える」「自分たちの取り組みをすべての人に伝える努力をする」「常に情報を発信し続ける」などいろいろあります。『興味があるかたは』一読ください。市民のみならずにもぜひ、地域共生のNASAの一員として、情報発信や共有にご協力いただければ幸いです。

地域共生のマーケティングとは「市民がうまく暮らし続ける仕組みを作ること」です。市民のみならずにとつて「うまく暮らす」姿の実現こそが、地域共生の月面着陸なんだと思います。このコラムがそのための情報発信の一助となることを願います。



とばびと
活躍
プロジェクト

トバゴト

Vol.19



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係

(生活支援コーディネーター 杉浦徹)



25

1186

キーワード
#まちの情報発信
#つながりの持続

今回のトバゴトコラムは「まちの情報と伝え方」についてのお話です。たとえば、町内の情報をみなさんに伝える手段としては、掲示板への張り紙や回覧板などがあるとあります。これらは、まちの情報発信や共有に「とても良い手段ですが、災害時などの素早い情報発信や、掲示板を見に行くことが困難なかなど」とつては、十分な情報が得られる手段とならない場合があります。まちのみならずへ大切な情報を伝えていくためには、もっと多様な手段が必要なのかもしれません。

そこで、石鏡町ではデジタルを用いた情報発信を行うため、石鏡町内会が独自で「LINE公式アカウント」を立ち上げ、まちの情報発信とさらなる普及を目指してスマホ教室活動などを始めました。今やLINEは、すべ

ての年代で幅広く利用され、スマホやケータイ所有者の8割以上が利用しているというデータがあります。また、70代の普及率も69%ととても高いようです(2022年一般向けモバイル動向調査)。石鏡町ではこのLINEを用いて、暴風警報、土砂崩れや工事による通行止め情報の発信、七五三の申し込み受付なども実施しています。また、デジタルを用いることで、は地元を離れているかたががまちの情報を得ることができるとなり、つながりの持続にも役立っています。新しい取り組みの実施には、課題や困難もたくさん生じることと思いますが、これらのまちのコトを考えたとき、石鏡町の活動はとても魅力的に感じます。



石鏡町
LINE公式アカウント

